



こだち News

目次

平成28年度
事業計画 2

平成27年度
臨床心理サー
ビス事業統計 3

掲示板 4

巻頭言

エリクソンの馬

九州工業大学
菊池悌一郎

平成28年度の事務局

事務局の体制が次の
通り変わります。

理事長：

黒木俊秀

顧問：

田寫誠一

事務局長：

中村俊夫

相談室長：

増田健太郎

心理臨床部長：

山口雄介

事務局員：

香野有咲

高橋大樹

柳 裕哉

山室香理

準事務局員：

田中将司

牧山翔子

(五十音順)

どうぞよろしく
お願いいたします。

ミルトン・エリクソン (Milton H.Erickson,M.D.,1901-1980)は20世紀のアメリカで、魔術師と呼ばれた催眠療法、心理療法の大家です。彼の天才的な技法を、凡人でも使いこなせるよう後生の弟子達が一般化したのが、ブリーフセラピーをはじめとする一群の心理療法であるといえるでしょう。

さて、そのエリクソンが、教育セミナーで語った逸話に次のようなものがあります。

エリクソンが高校生の頃、学校からの帰り道、農場から逃げ出した一頭の馬に出会ったそうです。エリクソンは、どこの農場の馬かわからなかったが、背にとびのり、文字通り道草を食おうとする馬を道に戻し、走らせて、逃げ出した農場に連れて帰りました。馬が帰ってきたのを見て、その農夫がエリクソンに聞きました「なぜ、ここだってわかったんだい?」、「僕は知りません…馬が知っていたんです。僕は道の上を走らせただけです」

少年時代ながら、すでにエリクソンが天才的な影響力(馬にまで!)を持っているのに驚くばかりですが、さらに、この話の最後に、彼はこう付け加えています。

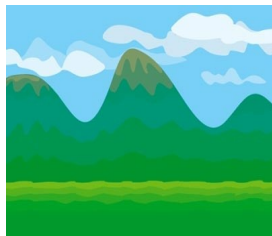
「……これが心理療法のやり方だと、私は思います」

エリクソンが人に影響を与えるために「逸話(アネクドート)」を用いたことはよく知られています。直接的でなく、間接的で、時には隠喩的な手段を使って、人々がそこに意味や方法を見つけ、自分の問題を解決できるアプローチを好んだようです。

この馬の逸話が、教育セミナーで語られたものであることを考えると、エリクソンは、セミナーの受講者たち、そしてその記録の読者たちに向けて、心理療法とはどのようなものであるか、どのようにすれば心理療法の目的である解決にクライアントを導くことができるか、ということを教えてくれているのでしょう。

農場から逃げ出した馬のように、心理療法にやってくるクライアントは、帰る場所、すなわち解決を知っており、セラピストの役目は、クライアントが、その解決に向かって、「道草を食う」ことなく、歩みを進めることである、といったところでしょうか。

エリクソンが逸話を多用したわけの一つは、逸話がそれを聞く個々人の経験や共感、連想を引き出すことにあるそうです。みなさんは、どのような連想をもたれたのでしょうか?もうそれは、この馬と同じように、みなさんもエリクソンに導かれているのです。



平成28年度事業計画



当法人は「臨床心理サービス事業」「協働事業」「研究事業」「研修事業」の4つの枠組みで事業を展開しています。平成28年度の各事業計画をお知らせします。



臨床心理サービス事業

カウンセリングルーム「こだち」では、臨床心理士の資格をもつ相談員が、心理面接を担当しています。

家庭学習支援事業では、不登校や発達障がいを抱える児童生徒を主な対象として、主に臨床心理学を専攻している大学生・大学院生の学習支援員の派遣を行っています。家庭学習支援事業では「①家庭学習支援員の派遣」「②保護者相談」「③家庭学習支援員の資質向上（研修）」の3つを1セットとして行っています。

思春期居場所支援事業（ここりーと）では、不登校児童生徒やひきこもりの青少年を対象に、水曜日と金曜日の13時～16時にこだちのプレイルームを使ってフリースペース活動を行っています。スタッフ数名とゲームや折り紙、おしゃべりをしたり、ゆったりとした時間を過ごしています。また活動前後にミーティングを行い関わり方などの話し合いをします。



協働事業

地域のニーズに応じて、カウンセラー・講師派遣事業を継続的に実施してきました。講師派遣に関しては好評のものも多く引き続き依頼が届いている機関も多くあります。

今年度も引き続き、大学生、社会人等を対象としたキャリア支援講義、ストレスケア講義の講師派遣を行っています。



研修事業

平成28年度は、下記の研修会を企画しています。年度途中にも研修会を企画・実施していきます。参加申込はこだちからのチラシやホームページにも掲載しておりますので、ご参照ください。

○こだちロールシャッハ研修会

本年度で8回目となるロールシャッハ研修会です。本年度は前半2回で基本の講義、後半の4回はロールシャッハ法の事例を継起分析を中心に検討します。スコアだけに終始しない、クライアントの内界を理解し味わっていくための一味違ったロールシャッハ研修会です。

○現場で使える臨床動作法 2016

平成23年度から開始し6回目の実施となります。成瀬先生を始めとした九州大学の教員が講師となり、臨床動作法の理論から実践までを共に学びます。9月25日（日）に開催予定です。

○セラピスト・フォーカシングワークショップ

臨床面接の場におけるセラピストの体験をフォーカシングを用いてゆっくりと味わい、確かめていく研修会です。リピーターも多く、好評につき今年度で10回目を迎えます。

○教職員対象の校内研修会・事例検討会の方法

スクールカウンセラーを対象とする研修会です。本年度で2回目です。6月26日（日）に開催予定です。

○事例で学ぶテストバッテリー

今年度は8月7日（日）・12月11日（日）に開催予定です。知能検査とロールシャッハ法を中心とした投射法でテストバッテリーを組んだ事例から、テストの読み解き方、活用の仕方について、高橋靖恵先生（京都大学）を講師にお招きして1つの事例を1日かけてじっくり学んでいきます。

○こだち精神医学講座

精神医学に関する研修会を開催します。ワークショップ形式で開催予定です。

平成27年度事業報告

「臨床心理サービス事業」「協働事業」「研修事業」の各事業ごとに平成27年度の事業報告を行います。

◇臨床心理サービス事業

こだちでは臨床心理士の資格をもった相談員の心理面接が事業の大きな柱となっています。平成27年度は73件のインテーク面接を実施しました。やや減少傾向にあります。一方、平成27年度の総面接回数は1559回でした。母子並行での面接はむしろ増加傾向にあり、臨床心理サービスに対するニーズの大きさと、当相談室が徐々に一般市民の皆様に認知されてきていることが考えられます。

相談内容は、子どもや保護者の方の相談（不登校、発達の相談、親子関係、友人関係等）や成人の相談（家族関係、対人面での悩み、会社の人間関係、うつ等）と、多岐に渡る相談内容があり、医療機関と連携しながら面接を実施しているものも多くあります。面接の中で必要に応じて検査の実施等も行っています。また、福岡市内や県内はもとより、県外からも来談いただいています。

家庭学習支援事業にも例年通り多くの申し込みをいただき、7件が実働しております。平成27年度で6年目となったこだちゼミナールは、一般市民向けに実施しています。例年定員を超えた申し込みをいただいております。平成27年度も好評のうちに終了しました。思春期居場所支援事業（ここりーと）も九大の大学院生がスタッフとなり、安定した活動を行っています。

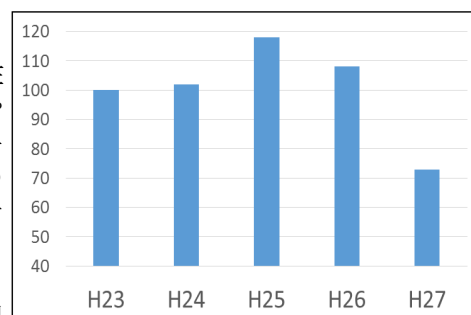


図1. インテーク面接件数の推移

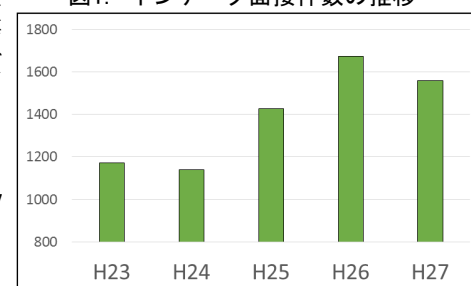


図2. 総面接回数の推移

◇協働事業

一般企業や行政・教育機関、病院等へ講師派遣を行い、平成26年度は10か所で研修会を行いました。好評をいただいております。多様なニーズにお応えしております。また、人間関係を苦手とする専門学生へのグループワークを15回シリーズで行いました。

臨床心理学の知見を活用した地域社会への貢献を設立理念としてあげていますが、会員のみなさまのご協力から、地域の多くの企業、病院、学校とのつながりが広がってきています。



◇研修事業

平成27年度は「こだちロールシャッハ研修会」「セラピスト・フォーカシング研修会」を継続型の研修会として実施しました。また「現場で使える臨床動作法2015」「こだち精神医学講座」等のワークショップ型の研修会も企画・実施しました。

今後ともいろいろな研修会を企画・実施していきたいと考えています。研修会に関する感想やご意見をぜひお寄せください。

◇その他

第九回定時総会特別企画として、鑓幹八郎先生（双葉の里精神分析研究室）をお迎えして特別講演会を開催しました。また、設立九周年記念企画として神田橋條治先生（伊敷病院）をお迎えして公開スーパーヴィジョンを開催しました。それぞれの会に多数のご参加をいただき、感想からも非常に好評をいただきました。

研修会のお知らせ

—市民向け心理学講座— 「九大こだちゼミナール 2016」

九州大学の心理学を専門とする教授陣が「心理学・臨床心理学・精神医学 アラカルト」と題して講義や実習を行います。日程は以下の通りです。研修会の詳細をお知りになりたい方は、当法人にお問い合わせください。



第1回	7/9 (土)	14:00~16:00	第5回	11/19 (土)	14:00~16:00
第2回	8/20 (土)	14:00~16:00	第6回	12/24 (土)	14:00~16:00
第3回	9/17 (土)	14:00~16:00	第7回	1/21 (土)	14:00~16:00
第4回	10/22 (土)	14:00~16:00	第8回	2/25 (土)	14:00~16:00



掲 示 板

こだちよりお知らせ

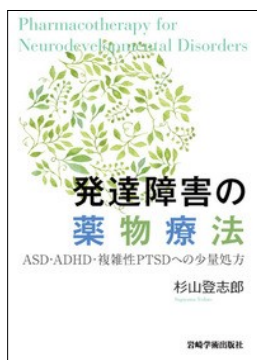
書籍紹介

発達障害の薬物療法

ASD・ADHD・複雑性PTSDへの少量処方

杉山登志郎（著）
岩崎学術出版社

生まれつきの発達障害や、虐待被害による「第4の発達障害」と、統合失調症やうつ病との鑑別の重要性を指摘し、そのような事例に対する向精神薬の多剤大量処方の問題に警鐘を鳴らす1冊です。患者自身とその親の世代を含めた成育環境の丁寧な見立てや診断のあり方、患者の生活を安定させるために有効な向精神薬・漢方薬の少量処方の工夫、精神療法によるトラウマケアの方法について、多くの事例を提示しながら紹介されています。著者の杉山先生には、5月22日に当法人定時総会特別企画にてご講演いただきました。



学校の先生・SCにも知ってほしい 不登校の子どもに何が必要か

増田健太郎（編著）
慶應義塾大学出版会

「不登校ゼロは本当にいいことなのか」という問いから始まる本書は、実際の事例を通して、子どものころ、保護者の思いに触れながら、教育学、臨床心理学、精神医学の専門家たちが、不登校の子どもやその家族に本当に必要な支援の在り方について論じたものです。教師やSC、保護者に向けて書かれた本書は、身体症状や発達障害、服薬についてもわかりやすくまとめられており、不登校支援の現場に携わる方にはぜひ手にとって頂きたい一冊です。なお、当法人の専務理事の増田健太郎、理事長の黒木俊秀も執筆を担当しました。



〇入会のご案内

こだちは今年で10年目を迎えます。地域に定着した心理臨床サービスを継続するには、収支の安定が求められます。NPO法人の会員となって私たちの活動を支援いただけると幸いです。会員になっていただける方はぜひこだちまでご連絡ください。なお、**会費は1年毎の更新制です。**よろしくお願いいたします。

〇ご支援のお願い

当NPO法人では会員以外の方からも、ご寄付をおまちしております。関心や興味をもたれた方はぜひご連絡ください。

編集後記 「世の中に絶えて桜のなかりせば 春の心はのどけからまし（在原業平）」という歌があります。桜がなければ心穏やかに春を過ごせるのにという歌。しかしやっぱり、「桜」のある、のどかならぬ「春」が良い。（Y）

交通のご案内 ■■■■■■



■■ 地下鉄でお越しの方 ■■

福岡市営地下鉄空港線西新駅下車後
7番出口より徒歩にて約10分



特定非営利活動法人 九州大学こころとそだちの相談室

〒814-0002
福岡市早良区西新2-16-23 九州大学西新プラザ内 産学交流棟

TEL 092-832-1345 FAX 092-832-1346
HP <http://kodachi.or.jp/>